



わが町は、「若者の移住希望をかなえる」ことができる町です。

田中照子氏が問う

定住には小川町ファンづくりを

Q 「おがわ まちなか散歩ツアー」の実績と参加者の感想は。

A にぎわい創出課長 ことし1月から事業を開始し、6件の案内を行いました。好意的な意見が中心でしたが、「解説の時間を増やしてほしい」という要望もありました。

Q 移住サポートセンターの現時点での評価と反省、さらに今後の取り組みは。

A にぎわい創出課長 登録物件数が27件で移住希望者が97件、条件が合わないので契約に至らないケースもありました。

たが、実績として10件の移住サポートができました。今後も、物件の掘り起しを進め、移住希望者に情報提供ができるよう地元の不動産業者との連携や、各地区の皆さんのご協力を得ていきたいと考えます。

定住促進に子育て支援の充実を

Q 今後、「産後うつ」がさらに増えるかと想定される中、その対策は。

A 健康福祉課長 「産後うつ」は出産後早期にあらわれるため、産後2カ月くらいまでに最初の訪問を行ない、個に応じた母親への必要な切れ目ない支援を行なっていきます。また、父親の心の健康状態は母親に大きな影響を与えるため、今年度からママパパ教室での資料に、父親の心の健康に関するページを追加しました。



散歩ツアーは、「まちなか」の歴史を中心に観光ボランティアガイドが案内します。



お金かけなくてもできることあるよ。

おおとひさかず 大戸久一氏が問う

全町民参加で町の活性化を

Q 休耕地を利用した一面のポピー畑等、来町者に楽しんでもらう地域おこしに支援を。

A にぎわい創出課長 地域の環境整備や活性化活動等を積極的に行なっている団体を町全体でフォローし、PR、支援していきます。

Q 町の活性化に貢献している団体への表彰制度は。

A 防災地域支援課長 地域や町が輝くすばらしい活動を町広報紙やホームページで紹介し、県シラコバト賞表彰への

推薦をしています。町独自の表彰については、先進事例を踏まえ研究していきます。

Q 和紙利用の拡大に向け、一例として七夕まつりで木枠と和紙を使った灯笼の設置は。

A にぎわい創出課長 各種アイデアを募集する方法など、七夕まつり実行委員会で研究していきます。

Q 七夕まつりや花火等、寄附をいただいた方に役場等公共施設に名前を掲載した看板を設置し、感謝の気持ちをあらわしたらどうか。

A にぎわい創出課長 名前は七夕まつりのパンフレットに記載し、感謝の気持ちをあらわしています。掲示については、今後検討していきます。



伝統工芸会館南側の休耕地を活用したポピー畑。

子供の成長を実感しています

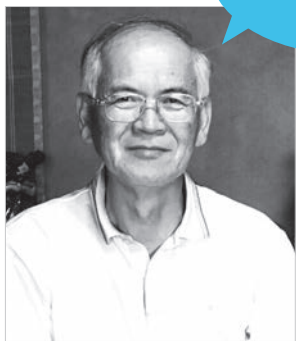


田島温子さん(腰上) Atsuko Tajima

私には1歳9カ月になる娘がいます。最近になって仕事にも復帰し、家事に育児に仕事にと奮闘しています。まだ慣れない生活リズムの中で難しいこともあるけど、家族に手伝ってもらい両立できるようになってきました。子供が保育園に行くようになってから、言葉をたくさん覚えてきたり、自分でお着替えをしようとしたりする姿に、日々の成長を実感しています。本当に先生方には感謝です。

子育ては、たまに(?)イライラしたりすることもあるけど、私に似た「まんまるな寝顔」を見ると、そんな気持ちも吹き飛んでしまいます。近頃の目標は、子供の野菜嫌いをなくすこと。本やネットでいろんなレシピを研究中です。皆さん、何かよい方法はありますか。

地元を見つめる



吉田 肇さん(下勝呂) Hajime Yoshida

退職後、毎日の散歩で地元の山河の移ることを実感し、農業・陶芸・仏像彫刻に励むことを目指している。さらに社寺などを巡ることで、地域の歴史にも関心が湧き起り『小川町史』などをひもといている。ここ小川町は私淑する民芸運動家の柳宗悦が細川紙の美を見出した所。地味な和紙をどう宣伝し、町の魅力とするかが課題である。私は彫刻を伝統工芸会館で行なっているが、館内催事、前庭のスペースの魅力的活用が課題だと感じる。埼玉には多くの工芸家がいる。日々の生活(衣食住)を美しくする日用品を、もっと発信してもよいのではないか。国の重要文化財の吉田家住宅で、毎年「春芸展」を実施しているが、生きた使われ方をしている。文化財でなくても町には「小京都」にふさわしい建物、町並み、自然がまだ残る。それらを守り、点を線に結ぶまちおこしを願う。